



りんごの高温少雨対策と今後の管理について

1 現在の生育状況（「ふじ」園芸農業研究所（寒河江市））

- ・満開期は5月1日で、前年より6日、平年より1日遅かった。
- ・7月23日時点の果実肥大は、タテ径 52.2mm、ヨコ径 58.3mm で、平年比 95～96%程度となっている。

2 高温少雨対策

今後も高温が続く見込み（仙台管区气象台 1 か月予報）
高温少雨が続いているため、灌水を中心に対策を実施

（1）灌水

- ・灌水量は1週間に 10a 当たり 20～30mm が基本
（水利が悪い場合は1樹当たり 100～200L）
- ・幹回りを稲わら等でマルチし、乾燥防止を図る
（土壌が乾燥しやすいため、圃場の草刈は控える）
- ・若木やわい性台など根域が浅い樹は積極的に灌水

（2）樹上散水

- ・果実温が上昇する時間帯（概ね 11 時～16 時頃）に、
1 時間 1 回を目安に複数回実施

（3）遮光

- ・寒冷紗（遮光率 20%程度）を樹の西側や南側に設置
- ・部分的な被覆でも十分な効果が得られる



3 高温時の着色管理



○ 葉摘みは最小限に留める

- 日焼け果防止のため、着色管理はできる限り、曇天日に行う

Point

- 晴天日に行う際は、日当たりの良い外周部は果実温が高まった日中から行う

（1）徒長枝管理

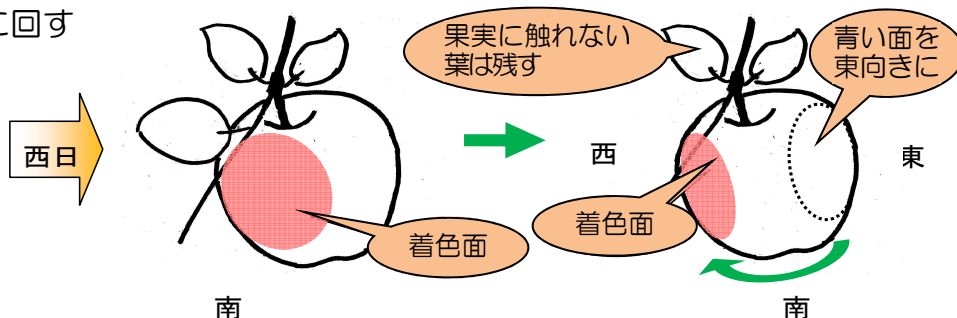
- ・日焼け果防止のため、幹回りや分岐部等を中心に実施する（**南面・西面は最小限に**）
- ・切りすぎに注意し、主枝の背面は 50cm 程度の適度な間隔で徒長枝を配置する

（2）葉摘み

部位	時期	方法
樹冠内部	収穫開始2週間前	果実に直接覆い被さる葉を中心に摘み取る
外周部	// 1週間前	果実に 密着している葉のみ 摘み取る 日焼けしやすい 樹上部や南面等は実施しない

（3）玉回し

- ・着色が進んだものから随時実施し、青い面（陰光面）は西日が当たらない東向きに、着色面は西向きに回す



4 適正な落果防止剤の使用



- 乾燥が続く場合は、散布の前後に灌水を実施（乾燥条件では効果が劣るため）
- 早期散布や2回散布、着色促進剤との併用は、過熟を助長するため実施しない
- Point ○ 葉害防止のため、高温時の散布は実施しない

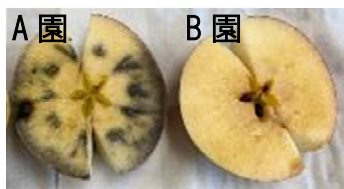
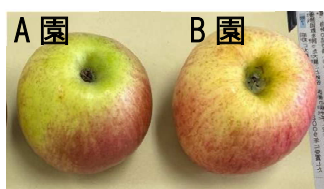
■落果防止剤の「基本的な」使用方法

種類	時期	濃度
ヒオモン水溶剤	収穫開始7～10日前頃	2,000倍
ストップール液剤	収穫開始14日前頃	1,500倍

- ◆高温乾燥時は、即効性で、熟期促進効果が小さい「ヒオモン水溶剤」が望ましい
- ◆「ストップール液剤」を使用する際は、散布前後に灌水を実施

【注意点】

- ・ストップール液剤は熟期（着色、デンプン抜け、地色の黄化）が進む傾向があるため、収穫時期や労力等を考慮し、収穫可能な範囲で使用する
- ・高温時に収穫期を迎えた場合、着色が停滞するが、地色の黄化やデンプンの抜けは進むため、収穫期は着色にとらわれず食味等も加味し、総合的に判断する



【令和5年の対策事例】

- <A園> 灌水あり
ヒオモン水溶剤 2,000倍（8/20散布）
- <B園> 灌水なし
ストップール液剤 1,500倍（8/2散布）
- ※ B園はA園に比べ、収穫期が早まったが、高温のため着色不良、過熟果が多くなった

5 適期内収穫



- もぎ遅れに注意し、適期内収穫に努める

【高温年の果実品質の特徴】

Point

- ・収穫期が早まる（開花から収穫期までの日数が短くなる）
- ・着色は停滞するが、デンプンの抜けや地色の黄化が急激に進む
- ・収穫期は着色にとらわれず、地色の黄化や食味等を加味し、総合的に判断する

<参考> 令和5年の高温障害の発生状況

日焼け果

- ・日当たりの良い樹上部や樹冠外周部、南面や西面での発生が多く、弱樹勢樹や土壌水分が少ない圃場でも多い
- ・日焼け果が発生する温度：日最高気温 32℃以上

過熟果（みつ症）

- ・着色は停滞したものの、果肉軟化やデンプンの消失が急激に進んだため、収穫遅れが発生
- ・「シナノレッド」や「つがる」等の早生種を中心にみつ症の発生もみられた

収穫前落果

- ・3倍体の品種（「秋陽」「ジョナゴールド」等）やエチレン発生が多い品種（「紅玉」「王林」「こうとく」等）で多かった
- ・土壌水分が少ない園地や根域が浅いわい性台で多かった

やまがたアグリネットに会員登録（無料）いただくと、「高温少雨対策マニュアル（R6年3月作成）」の閲覧が可能です。ぜひご覧ください。



↑会員登録用



↑閲覧用

園芸品目
高温少雨対策
マニュアル



令和5年3月
山形県果樹改良場

今後も気温が高い日が続くため、農作業時の水分補給・塩分補給をこまめに実施しよう！